

	<p>特定非営利活動法人</p> <h1>富山県防災士会 会報</h1> <p>（NPO 法人日本防災士会・富山県支部）</p>	<p>第23号</p> <p>平成31年3月1日 発行 富山県防災士会 連絡先 090-9762-8267 (事務局長：佐伯)</p>
---	--	--

**平成30年度研修会を開催
どう作る？ 地区防災計画
～具体的に一步踏み出すために～**



本年度の富山県防災士会研修会は、12月8日、日本防災士機構より橋本茂事務総長を講師に招き、「どう作る？ 地区防災計画～具体的に一步踏み出すために～」をテーマに開催されました。この研修会は日本防災士会スキルアップ研修会とも共催し、北信越支部連絡協議会の行事にもなったこともあり、72名の多数の方が参加されました。

小杉理事長、富山県総合政策局防災・危機管理課の松井課長の挨拶に続き、橋本氏の講演では、まず、大川小学校訴訟の高裁判決および東日本大震災・熊本地震・大阪北部地震・西日本豪雨の教訓を基に、地区防災計画を推進する意味・目的について具体的に解説され、計画作成の手順と日本防災士会の役割についての説明がありました。生きた地区防災計画を作るためには、「地区の皆さんが、みんなで話し合ってみんなで決めること」が目標であり、「みんなで災害に対応する意識と方法を共有する過程が大切であること」を学びました。地区防災計画の作成を促す日本防災士会制作のビデオも紹介され、「地域に根を下ろして密着し計画性を持って地域を押し上げていこうという意識で、今までやってきたことを一步前に進めてもらいたい」との言葉に、参加者は地区防災計画の推進に積極的に関わっていく決意を新たにしました。（記 永原）

第5回富山県女性防災士のつどいを開催



「第5回富山県女性防災士のつどい」が、10月14日富山市のファボーレカルチャー教室で開催されました。小杉理事長、富山県総合政策局防災・危機管理課の松井課長の挨拶のあと、第1部ではNHK気象予報士の篠原正氏を迎え「私がこれまで体験した災害」と題する講演が行われました。愛媛、東京、宮城などで経験された様々な災害の実体験はとてつもない説得力があり、また最近の自然災害や天気予報について気象予報士の観点からわかりやすく説明がありました。また、第2部のワークショップ『地域に広めたい「防災・減災対策」を考えよう！』では、34名の女性防災士が平日頃の活動や今後やってみたいことなどを意見交換し、最後に日本防災士会女性推進局の益子氏より講評を頂きました。どのグループも活発に話し合いができ、ほとんどの方が「楽しかった、刺激になった、今後もこのような会を開いてほしい」という声が多数寄せられました。

さらに女性防災士のネットワークが広がり、このような会を継続していくために、今回「防災かあ～ちゃん富山」のLine@を立ち上げました。（記 大屋）



女性防災士の方はLineの友だち追加でQRコードを読み込んでください。



富山県防災士会ホームページ
当会の活動や取り組み等をご紹介します。
<https://www.toyama-bousaishikai.org>
地区での会員の活動を掲示板等でお知らせください。

会 員
自己紹介

防災士 川戸 眞二 (魚津市)

平成 24 年、地区の防災活動は組織も殆どなく困惑していました。そこで防災士資格を取得し、実践的な活動を学ぶべく富山県防災士会に入会させて頂きました。その後、地区の防災組織を見直し、防災士、消防士 OB や医師、看護師など専門性の高いサポート役の防災委員を加え「隣保の精神」を基本とした地域で助け合える組織活動としました。それから 6 年たちますが、災害弱者支援や地域で助け合えるネットワークづくりはまだ大きな課題ですし、防災組織の専門性、継続性を維持していくことも大変難しいと感じています。ただ、富山県防災士会に学び刺激を受けたことで防災訓練の参加者は毎年 250 名を超え、訓練内容も地域で起こりうる災害想定をもとに実践的な避難訓練、避難所運営訓練や負傷者応急処置、心肺蘇生法、資機材使用法、防災講座、日頃の備えなど多くのテーマを学べるようになり、少しホッとしております。今後も近隣地域と連携し、災害時を想定したタイムラインの訓練など実践的な活動にも注力していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。



平成 30 年度原子力防災訓練から
～富山県立小杉高校～

11 月 11 日、富山県立小杉高校において平成 30 年度の原子力防災訓練が開催され、富山県防災士会 13 名が参加し啓発活動を行いました。今回は 3 名の高校生が富山県防災士会ブースのボランティアに参加しています。以下は参加した高校生からの感想文です。



「今日は、色々な話を聞いて非常に参考になり、防災というイメージが 180 度変わりました。今何をしなければいけないのか、私たち高校生に何ができるか、もっと考えるべきだと思いました。防災を知ることの大切さ、日常に潜む危険さは沢山あると感じました。特にタンスが倒れて来る事、家の柱 1 本抜くだけで家が倒れる事など、危険と隣り合わせであることがわかりました。今高校生で進路を決める時期なのですが、選択肢としてこんな仕事もいいなと感じました。とても楽しく分かりやすくお話をしていただき楽しかったです。ありがとうございました。」(記 石黒)



平成 30 年度学校安全アドバイザー活動報告

富山県防災士会は今年度から始まった学校安全アドバイザー派遣推進事業として、県内の小中高 5 校に 10 名の防災士を派遣しました。



11 月 24 日に婦中町ふれあい館で開催された今年の活動報告会では、「土砂災害対応マニュアル」を県内で初めて策定した高校では、これに基づいた避難訓練も実施されたこと。また避難訓練終了後の反省会には気象台、消防署のほか、河川国道事務所などの行政機関とも連携した意見交換が行われたことなどが報告されました。



(記 小杉)

地区防災計画をすすめるために



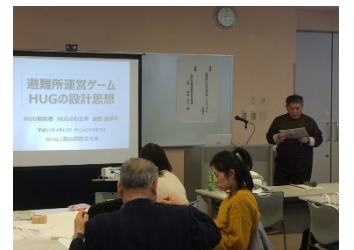
1 月 19 日、日本防災士会平成 30 年度地区防災推進会議(関東ブロック)が東京神田で 18 支部が参加して開催され、小杉理事長と佐伯事務局長が参加しました。松尾理事長からの「地区防災計画

制度の取り組みの基本」に続き、甘中事務局長の「地区防災計画推進状況調査報告書」の説明、また、大石副理事長からは「地区防災計画推進指導員養成」に関する解説がありました。その後、参加支部より最近の活動状況と地区防災計画への取り組み状況の報告がありました。

(記 佐伯)

新津波ハザードマップ/HUG の設計の考え方

1 月 12 日、富山地区防災士会会員を対象に「HUG の進行役の手引き」をテーマとした研修会を実施しました。まず富山市建設部防災対策課の松林真人氏より、



3 月公表予定の「新富山市津波ハザードマップ」作成についての説明があり、佐伯事務局長と島崎事務局次長の、昨年 12 月の静岡での HUG 考案者倉野康彦氏の「HUG の設計思想」に基づいた講演では、製作の意図として、「HUG 参加者が(楽しく)(体験的に)(わかりやすく直感的に)(臨場感)をもって(身に付けて)ほしいものにした」とのことでした。(記 小林)